

ぱつとわかりやすく  
ぐつと入りやすく

勤労者通信大学は、労働学校や『学習の友』などで学習を積んだ仲間が学ぶ、中級的な学習が目的でした。

しかし労働学校や『友』と出会う前に受講される方が増えたため、そうした皆さんにこたえる努力をはじめました。

二〇一八年に新設した入門コースは、「社会科学の新しい入口」であり「生き方と社会を考える」ためのコースとして、講師陣をはじめとした集团的議論に議論を重ねて誕生しました。

できるかぎり用語、概念を精選し、ぱつとわかりやすく、ぐつと入りやすく分量もコンパクトにまとめました。集団学習にもぴたりで、読み合わせと語り合いの「カフェ」的学習会の経験も生まれています。

もちろん勤労者通信大学全体の入門的役割もはたせます。

社会を見抜けば  
生き方も変わってくる

受験戦争や学習指導要領などの影響もあり、主権者教育や現代史、社会を科学的につかむ教育はきわめて弱いのが現状です。

加えて政府や財界の圧力を受けたマスコミなどの様々な誘導により「世の中は変わらない、それが普通だ」「不払い残業やパワハラは自分の責任だ」と、考えてしまう仲間がいても不思議はありません。

入門コースでは、生活・仕事と、政治・社会のつながりがつかむものの見方、考え方を学ぶことを、もっとも大切にしていきます。

勤労者通信大学の伝統を受け継ぎ、科学的なものの見方、考え方を培いながら、社会科学の入口にたつ内容です。

それぞれの実践の場で見せる「ものさし」を得る、勤労者通信大学の入門コースを、ぜひ学んでみませんか。



A5判168ページ  
コンパクトで、しかも中身は充実！

テキストが薄くなると、そのぶん内容も薄くなっている、いわゆる「骨皮筋右衛門」では、という印象をもつ方もいるでしょう。

ところが、入門コーステキストは、ちがうんです。

他のコースがあることを前提に、思い切った絞り込みをして、突っ込むべき点は突っ込む、触れる程度でいいというものはさらっと、入門としては省略してもいいと判断したものは思い切ってカットしました。

とくに重要なのは、テキストの入口の部分を中心に、若い人をはじめとして、いまの労働者や市民の方々の置かれている状況や意識・心情とかみ合った内容になっていることです。

ある県では、青年の集まりでテキストを読み合わせしたところ、1人の女性が泣きだし、「まるで私のことが書いてあるみたい。もっとはやく出会いたかった」とのべ、別の女性ももらい泣きし、2人ともその場で申し込んだ、というエピソードもあります。